

定禅寺の藤祭り 厳粛さと甘い香りに包まれて

樹齢500年以上の県指定天然記念物「**迎接の藤**」。今年は寒さで開花が遅れましたが、定禅寺(弁城)の境内で見事に咲き誇り、4月下旬から5月上旬まで多くの花見客でにぎわいました。今年から黄色の提灯がお目見えし、紫の花房がそよ風に揺れる中、4月29日に恒例の「藤祭り」が催され、厳粛な雰囲気と甘い香りに包まれながら、藤供養が営まれました。



↑ 大庭住職による藤供養の読経や尺八の献笛を約100人が静かに見守りました。

↓ 依頼された図を描いた酒井さん作の記念湯飲み、高さ約13cmとサイズは大きめ。



田川を 上野焼昇龍窯が田川署記念品を制作 川を描いた酒井さん力作湯飲み

添田署と統合し、4月から新体制となった田川警察署の記念湯飲みを、上野焼昇龍窯の酒井俊雄さんが制作しました。「形に残る統合の記念に、田川が誇る伝統的工芸品の上野焼が最適」と、署員が制作費を出し合って酒井さんに依頼。3月上旬から約40日間で300個、香春岳や二本煙突、英彦山神宮など、一つひとつ丁寧に手描きして仕上げられました。

第37回 上野焼春の陶器まつり 上野の器と風土に満たされた陶芸ファン

上野焼協同組合16窯元による「春の陶器まつり」が4月23日から3日間、上野の里ふれあい交流会館と各窯元で開催されました。訪れた約1万人の陶芸ファンは、お気に入りの器を手し、新緑が彩る福智山の麓で春の上野路を満喫。店頭には個性豊かな作品やお買い得品など豊富な品数が並び、多くの露店やふれあい市の「農産物大売り出し」も大好評でした。



↑ お目当ての品を見つけた陶芸ファン、県外ナンバーの車も多く見られました。

↓ 今もなお地元の人に守られている伝統行事、甘茶をかけて無病息災を願います。



願 興国寺の花まつり いかけ受け継ぐ地元の祭事

足利尊氏公ゆかりの寺で知られる興国寺(上野)の「花まつり」が、5月8日に行われました。お釈迦様の誕生を祝うこの祭事は、通称「甘茶」と呼ばれ、その昔、地元の小学校が休みになったほどのイベント。境内には花で飾られた御堂が設置され、幅広い年代の人が無病息災を願いながら、生まれたばかりの小さな釈迦像に、ひしゃくで甘茶をかけました。

↓ 道真公にゆかりある梅の神紋を胸に、15人の稚児が真剣な表情で順に太鼓を響かせました。



伝 南木菅原神社の神幸祭 統の舞誇らしく華やかに

学問の神として親しまれている菅原道真公が配所先の大宰府に赴く途中、境内の大石に腰掛けて休息したとの言い伝えがある「南木菅原神社」の神幸祭が、5月2日・3日に催されました。きらびやかな稚児と厳かな雰囲気の子獅子が、神社と御旅所で舞を奉納。明治初めごろからとり行われてきたこの祭りを飾る舞は、明治20年代に当時の青年たちが筑前(飯塚市庄内町)の綱分で習い覚えたのが始まりと伝えられ、戦争中も絶えることなく南木の伝統行事として今日まで受け継がれています。

渡 筑陶会八人展とギャラリートーク 久兵衛さん美術館で作陶への情熱語る

全国を舞台に活躍する筑豊の陶芸家8人によるグループ「筑陶会」の作品展「筑豊の土と炎と」が田川市美術館で開催され、4月10日～5月16日の期間中に1500人が来場しました。5月8日に同会場で開かれた作家によるギャラリートークは、渡久兵衛氏(上野焼渡窯)を中心に進行され、100人が来場した満席の展示場で、作陶に対する熱い思いが語られました。



↑ 昭和55年発足の筑陶会、館内4つの全展示室に170点の秀作が並びました。

↓ しっかりと手を上げて、青信号を確認しながら仮設の横断歩道を渡る児童たち。



交 市場小で交通安全教室 交通安全をおまわりさんと約束

5月13日に市場小体育館で交通安全教室が開かれました。田川署の警察官から信号や標識について説明を受けた1年生81人は、町交通安全推進委員が準備した横断歩道と踏み切りを渡って学んだことを実践。最後に「飛び出しはしません・信号は守ります・横断歩道を渡ります」の約束を警察官と交わし、交通安全について意識を高めた様子でした。